

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	昨年の外部評価で事業所独自の理念を指摘され、職員間で話し合い、決め理念に基づいたサービスを実施している。	どういケアを提供していくべきか職員間で話し合い、事業所独自の理念、介護目標をつくりあげた。理念作成に向けた話し合いの中から、「個別ケアの日」を設けるなど、理念に沿ったサービスを提供するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地域の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	地元老人会の慰問や保育所からの招待で夏祭りや歳之神に参加し、地元の人との関わりを密にしている。	老人会の慰問、そば打ち、コーラスなどのボランティアの訪問、保育所からの「歳之神」「夏祭り」への招待など地域との交流をはかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の生活援助が中心になっており、地域貢献は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進委員の方々に、ホームでの取り組みを報告し、相談しながら意見を元にサービス向上に生かしている。	定期的開催されている。事業所の取り組み等を報告し意見をもらうとともに、防災の協力体制等の課題について話し合い、運営に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の課題(災害時等の協力体制について)市の関係職員に伝え、協力して頂けるように取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーとして、市役所支所市民課長に参加してもらい、事業所の運営について理解してもらうなど協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解し、身体拘束は行っていない。	研修に参加し、定例会等でその内容を伝え理解を深めている。事例集、マニュアル等の資料はいつでも見られるようにして、日中は玄関の鍵をかけないようにすることも含めて身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。研修の内容を職員に反映している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作り、資料を参考にし、各自勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時管理者が本人・家族に説明し、納得した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、利用者・家族が気軽に意見や要望が言えるように対応をしている。	運営推進会議への家族会代表の参加、利用料の支払い等で訪問されるときや、介護計画の説明時、家族会の行事参加等の機会を活用し、家族等の意見や要望を引き出すように努め運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	日頃から管理者は、職員の提案を聞き、管理者会議を通して運営者と話の場を設け、反映させている。	毎月の定例会で、利用者の状況、設備に関することなどを職員間で話し合い、運営に活かすようにしている。法人の管理者会議を通じて法人との対話の場を設け運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望等を聞いてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人の研修会以外にも研修に参加し職員の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換しサービスの向上に生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに寄り添い、安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを受けとめ、不安や要望に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞きながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、生活のあらゆる場面(調理・掃除)互いの支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等を通じ御家族・利用者が一緒に過ごせる時間作り、共に支え合う関係作りの機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケア日を設け自宅訪問・墓参り・馴染みの理美容を支援、これまでの関係が途切れないようにしている	利用者に日ごろから行きたい所等を聞き出し、毎月「個別ケアの日」を設け、自宅訪問、お墓参り、馴染みの美容院に行くなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事を見極め、互いに役割を持ち、協力し合い助け合いながら暮らせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、いつでも気軽に来て頂けるよう声かけしている。退所された方より野菜の差し入れがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日々の関わりの中から本人の要望、思いを読み取り、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。又、家族からも随時、情報を得たり要望をうかがっている。	日々の関わりの中で、利用者の希望、意向を把握するように努め、個別記録に記入している。家族からも情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの生活、暮らしを伺ったり随時、職員が関わりの中で得た状況を共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、日々のかかりの中でのなげない気づきを共有し、把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、サービス担当者会議や随時、朝の申し送り等で話し合い、利用者がその人らしい暮らしができるよう介護計画を作成している。	日ごろの関わりの中で利用者の話を聞いたり、家族には訪問時や電話等で意向等を聞いている。職員全員によるサービス担当者会議で意見を出し合い介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護日誌や診療記録、生活史を記録し、申し送りを行っている。又、申し送りノートを活用し、全職員が利用者の情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期の病院受診介助のほか、急な歯科受診や、なじみの理美容院の送迎も対応している。利用者の要望に応じて、買い物支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の際は、区長の参加もあり、協力を得ている。又、地域消防団の協力を得て防火設備の点検をして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や、協力医療機関との連携を図りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関に職員同行により適切な受診支援を行っている。受診結果は、その都度やお便りで家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化・気づきを、随時看護職に報告し、特変あれば、早期に受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的な面会や、家族・医療機関との情報交換に努め、早期退院に向けた話し合いを設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞きながら、今後の課題として、法人・職員で検討して行きたい。	利用者が重度化(高齢化)してきているので、検討すべきと考えているが、医療連携など事業所だけで対応できない点もあって、法人との話し合いも含めて今後の検討課題となっている。	医療連携をどう確保するか法人との話し合いを進めると共に、利用者がホームで最後まで安心して暮らせるためには、今何ができて、何ができないのか、見極め、設備の見直し、介護の技術・知識の向上も含めて職員間での話し合いを進めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルがある。 救命救急の講習を、ほとんどの職員が受けているが、今年全員で受講したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、利用者が安全に避難出来るよう常に心掛けている。 区長の参加もあり、協力を得ている。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、夜間想定での避難訓練を実施し、区長にも参加してもらうなど地域の協力体制を築いている。災害に備えた飲料水、食料などの物品も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねることのないよう、言葉掛けに注意している。又、記録等の個人情報の保管に気をつけている。	プライバシーや誇りを損なうような言葉かけや対応をしないよう注意している。記録物などの個人情報は適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、信頼関係を築きながら、本人が、思いや希望を自由に表出できる様に気をつけ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、一人ひとりの希望に添った暮らしができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者の希望に応じて支援している。理美容は、本人の希望に応じて理美容に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	一緒に調理や盛り付けを行っている。後片付けは当番制になっており、自主的に手伝って頂いている。会話しながら楽しく食事できるような雰囲気作りを支援している。	調理、盛り付け、後片付けなども利用者と一緒にを行い、職員と利用者が同じテーブルで会話をしたりして楽しく食事ができるよう雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士に献立を見てもらい、指導を得ながらバランスの摂れた食事が提供出来るように対応している。食事量や水分量のチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、見守りをしている。一人ひとりの利用者に応じて、残歯の磨き残しの介助、義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中の布パンツ使用に取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見てトイレ誘導を行ったり、日中は布パンツにするなど出来るだけオムツはしないように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や、繊維を取り入れた献立の工夫、水分補給、適度な運動を心がけ、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、勤務の関係でおおよそ決まっているが、一人ひとりの希望に応じた時間に入浴できるよう早番・遅番に考慮し法人に働きかけていく。	週3回の入浴で、受診支援や職員配置の関係で日中の午後入浴となっている。	利用者一人ひとりの希望する入浴が可能になるよう遅番の配置や風呂場の改善等を検討してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はその人のペースに合わせている。活動等により安眠できるよう支援している。眠れない時は、足浴を試みたり、温かい飲み物を提供したり、添い寝をしたりして安眠を促す対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬を個々に閉じ、説明書にて理解に努めている。処方変更時には、申し送りノートに記載して、情報を共有している。誤薬を防ぐ為、ダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしい生活ができるよう支援している。(散歩、読書、俳句作り、手芸、ドライブ等)また、利用者の希望を聞きながらイベント(コンサート、ひめさゆり祭り等)出かける機会を多く設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数や日程により、希望に添えない時もあるが、散歩・ドライブ・買い物等を行っている。	日常的に散歩、買い物、ドライブ等を行っている。家族会の行事として花見、ぶどう狩り等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方に関しては、家族と相談し、自己管理のもと買い物支援している。職員は見守りしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙の使用の際は、希望があれば随時対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・ホールに、季節の花を飾っている。ホール内は季節感を取り入れた作品を掲示している。</p>	<p>玄関、ホールに季節の花を飾ったり、利用者と一緒に飾りつけを作ったり居心地良く過ごせる空間作りを工夫している。音、光、温度等も適切に配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールの空間作りを全職員で考え、座卓とソファを新たに設置し、利用者に喜んで頂いている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその</p>	<p>家族の写真や利用者の使い慣れた生活用品を持ち込んで、馴染んだ環境で過ごして頂いている。だが、使い慣れた物や好みの物の持ち込みは少ない。</p>	<p>使い慣れた馴染みのものの持込は少ないが、家族の写真などが飾られ自分の部屋らしくなるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、手すりも設置し安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れる様に工夫している。各居室の入り口は花の名前で分かりやすくし、浴室・トイレ等は見やすく大きな字で表示してある。</p>		